



〈目標11〉 住み続けられるまちづくりを

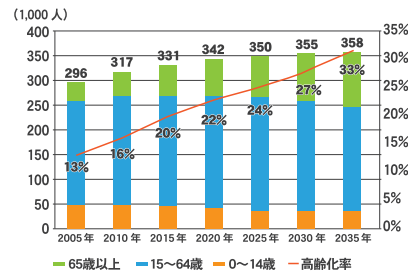
都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする

産・学・公・民の連携・協働による住民参加型・課題解決型プロジェクト「次世代郊外まちづくり」

1960年代、日本の高度成長にともない過密する東京の労働人口の受け皿として開発された東急多摩田園都市。人口減少時代に突入する今、この地域のメインインフラ、東急田園都市線の乗降人員が2020年を境に減少することが予測されている。事業者はもとより、まちの衰退という課題意識は自治体側も同じだ。そこで2012年4月、横浜市と東京急行電鉄株式会社(以下、東急電鉄)は「次世代郊外まちづくりの推進に関する協定」を締結。田園都市線たまプラーザ駅北側の横浜市青葉区美しが丘1・2・3丁目をモデル地区に選定し、住民の高齢化や建物の老朽化、若い世代の流出という地域課題を、産・学・公・民の協働によって解決していくプロジェクト「次世代郊外まちづくり WISE CITY」^(*)を始動した。

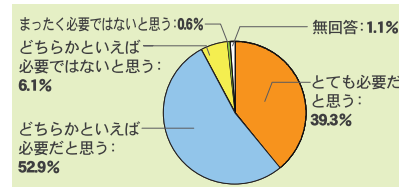
さらに、「次世代郊外まちづくりワークショップ」「たまプラーザ大学」「暮らしのインフラ検討部会」で対話と検討を重ね、2013年6月に「次世代郊外まちづくり

横浜市青葉区の人口の推移 (2015年以降は推計値)



出典:国立社会保障・人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口」(2008年12月推計)

地域のつながりが必要と感じるか



出典:「次世代郊外まちづくり基本構想2013」

神奈川県横浜市青葉区

横浜市青葉区は、環境未来都市を標榜する横浜市の18行政区のひとつで、市内最北西に位置する。面積は市内で戸塚区に次いで2番目。丘陵が多く、区の中央部を鶴見川が流れ、川沿いは豊かな田園風景が広がる自然豊かな場所である。

Data

- 人口:124,027人
- 世帯数:51,845世帯
- 出生数(月間):85人(男49、女36)
- 面積:868.02平方km

出典:横浜市青葉区役所「なるほどあおば2015データで見る青葉区」

基本構想2013」を策定するとともに、住民創発プロジェクトを開始。選考会を経て選ばれた15の活動を支援した。資金不足の場合は独自にクラウドファンディングを活用した団体もあった。もはや行政サービスや事業サービスだけに依存する姿勢では、課題解決の効果的な打開策は得られない状況も見えてきた。

2016年8月には、東急電鉄の土地・建物を活用し、「次世代郊外まちづくり」の情報発信拠点となる場「WISE Living Lab」の整備に着手。企業が場所やしくみづくりのノウハウを提供するが、活動の主体はあくまで市民。産・学・公・民が試行錯誤を重ねながら活動を続けることで、徐々に強靱なまちが形づくられていく。

※Wellness & Walkable/Intelligence & ICT/Smart・Sustainable & Safety/Ecology・Energy & Economyの頭文字をとった造語で「賢いまちづくり」という意味を含めた。2017年度以降も継続の予定で進行中。



地域雇用とまちの安心安全をテーマにはじまったポストディンク事業も住民創発プロジェクトの活動のひとつ。

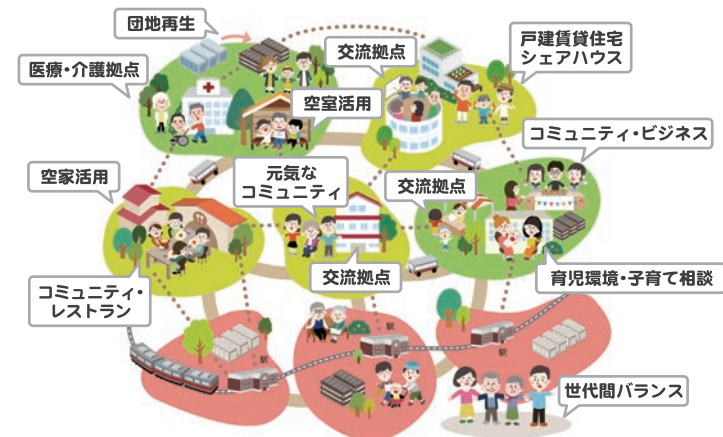


「WISE Living lab」の活用主体は地域住民。子育て現場の悩みや課題だと感じる事を出し合う会も開催された。

Point

- まちづくりでは、まずソフト面の検討をした後にハード改修を実施する。
- 人的ネットワークの構築は単純ではなく、ともに過ごす時間や空間が必要。
- 自治会長や商店会長を経由し、地域のキーマンを探し、積極的に巻き込む。

コミュニティ・リビング・モデル＝「コミュニティ・リビング」を中心とした「歩いて暮らせる生活圏」



[次世代郊外まちづくり] <http://jisedaikogai.jp/>

